

JSHCT Letter

No.16

The Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation

日本造血細胞移植学会

July 2004

発刊発行：日本造血細胞移植学会 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65番地 名古屋大学大学院血液内科内 TEL (052) 744-2146 FAX (052) 744-2146
発行者：小寺 良尚 編集責任：日本造血細胞移植学会編集委員会 印刷：株式会社セントラルコンベンションサービス 発行：2004年7月

理事長就任に当たってのご挨拶

名古屋第一赤十字病院 第四内科・骨髄移植センター
小寺 良尚

この度、皆様のご推挙により本学会の理事長職を拝命することとなりました。1978年に第一回骨髄移植懇話会として発足、1980年、第三回目に骨髄移植研究会と名称を変更、1996年第十九回目に学会となって今年度第二十七回総会を迎える本学会は、会員数2,100名、理事・監事数21名、評議員数99名、各種委員会数8委員会と発展し続けており、多くの業務を遂行してゆく上で理事长制を採った方がよいとの学会あり方委員会の答申に基づくものであります。大変な重責であり、心を引き締め会員皆様のご期待に添いたいと考えています。皆様もご承知のように、本学会の特徴は1)今年で発足27年目になるとはいえ未だ若い学会であること、2)医師、看護師をはじめとする医療従事者のみならず関連機関の構成員やボランティアの方達等が対等に参加する学会であること、3)移植データの全国集計事業に象徴されるように、会員、チーム間の結合力が強い学会であること、4)移植医療、再生医療、自己修復能力を利用した医療、といった今日的、近未来的テーマに携わっている学会であること、5)国内、海外の関連学会、関連機関との連携が活発であること、などが挙げられます。これら良き特質は歴代の会長をはじめ会員皆様のたゆまぬ努力の蓄積の結果であり、これからも決して気を緩めることなく守り育てていかなければならないものであります。若い会員に出来るだけ早く活躍の場を提供すること、若い会員は先輩たちの実績を踏まえた上で新しい事を始めること、各層の会員はお互いに尊重し合うこと、全国集計の登録率の一層の向上を図るとともに、始動し始めた臨床研究委員会を活用しわが国のこの分野における真の意味でのエビデンスを作ること、造血幹細胞移植療法の特徴である高い治癒率、社会復帰率を今以上に高め、それによって医療効率向上に貢献するとともに、この特質を血液関連疾患以外にも広めてゆくこと、国内外の関連学会との交流を保つことにより、本学会の果たすべき役割と方向性を常に明確にしておくこと、を共に心がけたいと思います。造血細胞移植に関わること全てにおいて、データを求められ、見解を求められ、最終的な判断を求められるのは本学会であります。学会のホームページ、ニュースレターなどを駆使して会員間の情報交換、その時々でのコンセンサス形成に、更に努める必要があります。多様な造血細胞移植療法は、高度且つ高額な医療でありながら学会内外の多くの人々の努力により今そのほとんどが健康保険の適用を受けております。しかしながらこの医療にかかる人手と時間を考える時未だ十分とは言えない部分もあります。我が国の医療財源のことは考慮に入れつつも、足りない部分に関しては適正な評価を受けられるよう今後とも努力したいと思います。造血細胞移植療法において患者の生存

率とQOLの向上、ドナーの安全性の確保には医師、看護師をはじめとする熟練した医療スタッフの存在が重要です。優れた医療スタッフを継続的に育てるための造血細胞移植認定(専門)医師・看護師育成システム(制度)を本学会が備えることは社会からも望まれていることです。

この様に、今考えられるだけでも幾つかの命題が本学会には課せられています。もとより全てがすぐ出来るわけではありませんが、理事、評議員をはじめとする学会員皆様と共に一つずつ実現していくため微力を尽くす所存でございますことを皆様にお誓いし理事長就任の挨拶とさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

第27回日本造血細胞移植学会総会開催を控えて

岡山大学大学院医歯学総合研究科病態制御科学専攻(第二内科)
谷本 光音

来る12月16日(木)、17日(金)の2日間、岡山市のホテルグランヴィア岡山ならびに岡山コンベンションセンターを会場として第27回の総会を開催させていただきます。岡山市では8年前に、私の前任者である原田実根先生(現九州大学病態修復内科学講座教授)が、研究会から学会となった第一回目の総会を開催されたのに続いての開催となります。その当時、学会事務局として岡山の総会を経験させていただいた私が、再び岡山において学会長を勤めさせていただくことに、何か不思議なご縁を感じております。

今回の総会の内容に関しては現在もお鋭意検討中ですが、統一テーマは「新しい医療の確かな証を求めて」とさせていただきます。近年、造血幹細胞移植の分野は、数多くの治療方法が出現し、また移植する造血細胞も多様になりつつあります。こうした中で患者さんの信頼を得るに十分な程度、治療法として確立されていることは何か、そしていまだ不十分な課題は何かといった点を中心にご議論いただけたら幸いに存じます。その他にも特別講演を2題、シンポジウム4題、ワークショップ12題、各種セミナーを14題程度予定いたしております。本学会の特色である、コメディカルの方々との共通した問題に関するセッションも多数用意する予定です。またボランティアの方々にも積極的にご参加いただき、バンク活動や患者さん支援の活動に関する情報・意見交換も活発に行っていきたいと考えております。

本総会が、ひとりひとりの力を合わせ、よりよい移植医療の構築を行い、患者さんが主体的に参加できる造血細胞移植医療のさらなる発展の一石になればと念じております。全国各地の会員の皆様方には、プログラム委員として、またそれぞれの企画のコーディネーターとして本会開催にお力添えをいただけたら幸いです。

最後になりますが、学会員の皆様には本総会を楽しんでいただくと共に、12月の中国路に足を伸ばしていただき、初冬の穏やかな景色と味覚を満喫していただきますようお願いいたします。

なお、演題募集の締め切りは7月29日から8月31日まで、on lineによる受付を予定いたしております。詳しくは学会HPをご覧ください。

学会の中に看護部会を

看護ネットワークの学会への統合が承認されて

造血細胞移植看護ネットワーク
代表 尾上 裕子

昨年の学会総会において看護部会の発足が承認されました。まだクリアすべき問題もありますが、理事会における討議を経て、とにかく学会の中に位置づけられることが決定したわけです。その後の理事会においてどのような位置づけにするか、どのような目的をもって活動していくかが話されていますがまもなく決まっていく予定です。

造血細胞移植看護ネットワークを立ち上げて6年半、会員は全国に300人を超えました。しかし学会へのナースの参加人数をみると昨年は千人を超えていたようですので移植ナース達の関心の深さが容易に想像できます。では、このナース達の移植看護に対する思いを受け止めて看護の質の向上につなげようとするとき何をすべきか、ネットワークの活動だけではすでに限界が見えていたことを感じます。もっと組織的に、もっと社会的に認知された機構の中で情報交換や教育を行っていく必要があると感じました。幸い、学会長からは毎年のようにラブコールを頂いておりましたので、私たちの希望はスムーズに取り上げられてこのような運びとなりました。

具体的なことを少し紹介させていただきますと看護部会の名称といしますか位置づけは“看護委員会”ということになりそうです。学会の中のさまざまな委員会と同じような位置づけで会の目的や事業に関してはネットワークのそれを踏襲します。委員会の体制もネットワークの組織に準じる予定です。委員会の中に小委員会を設けて研究活動、研修制度、広報活動を行っていきたいと思います。一番大きな問題は学会としての看護部が何をするのか、最終ゴールは何かということです。私たちはそれは移植看護のスペシャリストを育てることだと考えます。看護協会での認定看護師の道は少し遠いようなのでせめて学会レベルで認定できる道を開くことができればと思うのです。そのための教育プログラムをこれから考えていくことになろうかと思ひます。そのときは皆様のお知恵を借りることになります。よろしくお願いいたします。

移植医療を受けられる患者さんのため、移植ナース達が情報交換をして看護の質を上げていくために私たちができることをこれまで同様に続けていきたいと思ひます。医師をはじめとした他の専門職の方たちと協働しながら、あるいはサポートを受けながら、学会というひとつの組織の中でしっかり手を組んでいきたいものです。

学会員の皆様、看護委員会・看護の活動を何卒よろしくお願いいたします。

平成17年度評議員応募申請について

平成17年度本学会評議員の応募申請要項をお知らせいたします。なお、選任委員会の協議を経て、本年度総会の理事会・評議員会で承認され総会で決定されますと、平成17年4月1日より本学会の評議員となります。

平成17年度日本造血細胞移植学会評議員応募申請要項

下記の事項を順にA4用紙に記載し、平成16年8月31日(火)までに日本造血細胞移植学会評議員選任委員会宛て書留にて郵送してください。なお、原本の他に、原本のコピー7部を必ず同封してください。また、論文については別刷りを1部、学会発表についてはプログラムのコピーを1枚ずつ添付してください。要項に則しない申請書に関しては選考がおこなわれない可能性があります。

申請用紙は学会ホームページ(<http://www.jshct.com>)からダウンロードできます。

選考基準

日本造血細胞移植学会・理事評議員選任委員会規則に基づいて、分野別に得点の上位者から選考されます。なお、当該年度の新規選出評議員数は理事会において決定されます。

1. 研究業績、医療業績、コメディカル貢献実績の3要素別に客観的に公平に選任する。
2. 専門性、地域性など学会運営上の必要性を考慮する。
3. 研究業績の客観的評価方法

① 造血幹細胞移植に関する業績のみを対象とする。

② 英文研究業績については、IFで算定する

first author: IF x 1、second author: IF x 0.5、

senior author: IF x 0.5 (*研究責任者として1~2名が対象)、その他の著者: IF x 0.2

③ 「臨床血液」、「日本小児血液学会雑誌」、「日本血液学会雑誌(和文誌の時代)」などの和文学会誌に掲載された論文はIFを1点として上記と同様の算定方法とする。

④ 国内外の学会のうち、「日本造血細胞移植学会」、「日本血液学会」、「日本臨床血液学会」、「日本小児血液学会」、ASH(アメリカ血液学会)、ISEH(国際実験血液学会)、ISH(国際血液学会)、EBMT(ヨーロッパ造血幹細胞移植学会)における「特別講演」、「教育講演」、「シンポジウム」についてはIFを5点として計算する。

⑤ IF100点以上は優先的に選ぶ。

⑥ 医系候補の場合、最低10点のIFを必要とする。

4. 医療業績

① 移植報告数(学会への調査票報告数)を基準として、単一診療科で100例毎に1名とする。

② 複数の施設・診療科での経験がある場合には、主治医として「日本造血細胞移植学会」、「日本小児血液学会」、「骨髓バンク」、「日本さい帯血バンクネットワーク」への移植調査票の報告数が50例あれば、単一診療科で100例に満たなくとも良いものとする。

5. 看護系、技術系、コーディネーターなどのコメディカルについては、施設全体の医療実績を基準として選び、コメディカル全体として移植報告100例あたり1名とし、勤務上の変更などの事情があれば、委員会で審査の上、同一施設内での評議員の交替を認めるものとする。

記

1. 氏名(ふりがな)印
2. 生年月日(平成17年4月1日現在の年齢)
3. 所属施設 / 所属部署 / 職名 / 住所 / 電話番号・Fax番号 / e-mailアドレス
4. 学会(骨髓移植研究会を含む)入会年
5年以上正会員で会費完納が条件です。入会年、会費納入状況等のご不明の場合には事務局までお申し出下さい。連絡先:(052)269-3181
5. 学歴/略歴(職歴、所属学会/団体(役職)、造血細胞移植との関連が判るように)
6. 資格(医師、看護師、技師、コーディネーター等)
7. 専門分野・申請領域
臨床系医師・基礎系研究者の場合は必ず内科/小児科/輸血/その他臨床系(外科、泌尿器科など)/基礎

系のどの分野で主に活動しているかが判るように記載して下さい。医師以外の場合は、看護、検査、コーディネーター、など具体的に記載してください。

8. 医療業績

- ①申請者の造血幹細胞移植経験数(主治医として日本造血細胞移植学会、骨髄バンク、日本さい帯血バンクネットワークに移植報告書を提出した症例数)
- ②現在所属している施設診療科における日本造血細胞移植学会、骨髄バンク、日本さい帯血バンクネットワークに移植報告書を提出した症例数①と②を必ず併記して下さい。記載が無い場合は移植経験が無いものとみなします。

9. 研究業績(造血細胞移植に関連のある事項を400字以内で記載して下さい。)

10. 発表業績(別紙に記載して下さい。)

I. 論文(別刷りを1部添付して下さい)

造血細胞移植に関する論文のみを記載して下さい。

【欧文業績と和文業績(「臨床血液」、「日本小児血液学会雑誌」、「日本血液学会雑誌(和文誌の時代)」などの学会雑誌のみ)を別々に、最近のものから順に番号を付けて、「著者名・題名・発表誌年;号:最初の頁-最後の頁・IF(インパクトファクター)・点数(算出方法は上記)」の形式(著者を全員記載し申請者に下線を引くこと、及び、IFを付ける以外はBONE MARROW TRANSPLANTATIONに準じる)で記載して下さい。IFは最新(2002年度改定版;2001 Science Edition Journal Rankings)のJournal Citation Reportsを用いて下さい。和文誌のIFは1.0として下さい。

II. 学会発表(プログラムのコピーを添付して下さい)

造血細胞移植に関する発表のみを記載して下さい。

【過去10年間の筆頭演者としての発表のうち、特別講演、教育講演、シンポジウムとしての発表を、最近のものから順に番号を付けて、演者(3名までに省略可)・演題名・発表形式(特別講演・教育講演・シンポジウムの別)・学会名・発表年、を記載して下さい。

【送付先】

〒466-8550

名古屋市昭和区鶴舞町65

名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座 分子細胞内科学・血液内科内

日本造血細胞移植学会事務局(日本造血細胞移植学会評議員選任委員会と付記する)

【問い合わせ先】

日本造血細胞移植学会事務局

e-mail:jshct@med.nagoya-u.ac.jp

Phone:(052)744-2146 Fax:(052)744-2146

日本造血細胞移植学会事務局からのお知らせ - 各種委員会の委員長について -

幾つかの委員会では新しい委員長が未定となっておりますが、改訂された学会会則、各種委員会規約(細則)に基づき、委員長が以下のように決定されましたのでご報告致します。

ガイドライン委員会	加藤 剛二 /	臨床研究委員会	岡本 真一郎
在り方委員会	河 敬世 /	編集委員会	小島 勢二
全国集計データ管理委員会	土田 昌宏 /	理事評議員選任委員会	加藤 俊一
倫理委員会	谷本 光音 /	ドナー委員会	小寺 良尚

「PBSCT小委員会」は「ドナー委員会」と名称を変更いたしました

造血幹細胞移植のデータ管理一元化 および電子化に向けて

日頃は、学会員の皆様には日本造血細胞移植学会(以下JSHCT)の全国集計にご協力いただき、大変感謝いたしております。

データ管理委員会では、現在造血幹細胞移植のデータ管理一元化および電子化に向けてワーキンググループを結成し、検討・作業を開始いたしましたのでご報告いたします。

現在、造血幹細胞移植症例の登録先は、骨髄バンク(非血縁者間骨髄移植)、臍帯血バンク(臍帯血移植)、JSHCT小児、成人全国集計事務局(小児はすべての移植症例を対象、成人は非血縁者間骨髄移植を除いたすべての移植症例を対象)に分かれています。そのため、各施設では二重登録の手間が生じています。また、それぞれのデータベースにて用いているコードが異なるため、複数のデータベースをまとめて解析を行う際に困難が生じているなどの問題点があります。

これらの問題点を解決し、より正確にわが国における造血幹細胞移植の実施状況を把握するために、以下のような新登録システムの開発を2006年1月スタートを目標に開始いたしました。新登録システムは、OS Windows、ソフト Microsoft Office Access 2000以上にて作動するプログラムを予定していますが、より汎用性の高いプログラムの開発に関しても検討を行っていかうと考えております。

1. 移植施設においてデータ管理ができるプログラムを作成し、各施設に提供する(OS Windows、ソフト Microsoft Access 2000以上にて作動するプログラム)
2. 一つのプログラムにてすべての移植症例を入力でき、重複して登録(入力)する必要のないようにする。(入力は、一律入力フォームから入力するが、データテーブルとしては骨髄バンク、臍帯血バンク、JSHCT小児事務局、JSHCT成人事務局の4つができる)
3. 施設内では、患者個人名、カルテ番号も入力し、管理を行いやすくしているが、学会事務局に送るテーブルは、個人情報情報を排除し、さらに暗号化したものを、e-mailもしくは郵送にて送付していただく。(当面は、インターネットに接続されていない入力システムにて入力を行い、暗号化したファイルを事務局に送付することにて報告していただく)
4. 事務局では、報告数等をインターネットで会員に公表し、1ヶ月1回程度の更新を行い、全国集計報告書にある基礎データを自動的に集計できるプログラムを開発する。

以上につきまして、ご意見がございましたら、JSHCT 全国集計事務局 熱田 由子
(y-atsuta@med.nagoya-u.ac.jp)までお願い申し上げます。

データ管理委員会WG

日本造血細胞移植学会データ管理委員会委員長	土田 昌宏
骨髄移植推進財団データ試料管理委員会委員長	加藤 俊一
日本小児血液学会造血幹細胞移植委員会・データ事務局	気賀沢寿人
同	田淵 健
骨髄移植推進財団データ試料管理委員会委員	森島 泰雄
日本さい帯血バンクネットワーク・データ収集WG委員	加藤 剛二
日本造血細胞移植学会・データ管理事務局	浜島 信之
同	熱田 由子